WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

明治二十年七月九日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

女學雜誌

第六十六號

東京　女學雜誌社

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 66. July 9th, 1887.

第六十六號

EDITORIAL:—The Jubilee of Queen Victoria; Girl's School Established by foreigners.

LEADING ARTICLE:—Woman and Hygine, by Dr. K. Takagi.

MISCELLANIES:—On Dancing; Lessons on Japanese Literature (Poetry); Shintomiza Theatre.

CRITICAL NOTICE:—Wife's Companion (Saikun no Tomo) translated by Mr. R. Inouye.

BIOGRAPHIES:—Victoria, the Queen of England.

NOVEL:—"Fragrant Rose."

CORRESPONDENCES: — Dress Reform, by Miss Smith in America; Notices by T. Watanabe; Japanese Home-Amusement, by Yei Matsumoto; "Literal Garden," Selected by H. Sudsuki.

GENERAL NEWS.

●社説　大英國女王即位五十年祭　外國人が設立する女學校及日本の紳士富限者

●論説　高木兼寛氏演説女子と衛生筆記

●叢話　舞踏の利害○和文學講義第四（鈴木弘恭君述）○新富座の演劇を觀る

●批評　細君之友を評す

●傳　女王ヴイクトリアの傳

●小説　薔薇の香

●寄書　日本女服（スミス嬢寄送）○米國通信（渡邊鼎）○家内の遊戲（松本榮子）○文苑（歌及和文）

●新報　三十件　●廣告

○珊瑚の珠　（第三十三回）

○ヘンリー、ワード、ビーチヤ曰く余が確信する所の根據は之あり云く尤も安直に尤も容易に且つ尤も自然にして倘ほ適當したる所の方法を以て公共の事務を改革せんと欲せば玆に女流に共同の勢力を興ふるに如かず

○ビーチヤ又曰く世界初りし以來社會を立派にするは女子の任ありき諸君知るべし婦女子は彼の政府と云へるものを除くの外は家族にも敎會にも社會の生計にも文學にも技藝にも悉く其力によりて改良を施したるに非ずや然らバ之をして亦其力を立法及び民政の上に行れしむるに何ぞ効なしと云れん

○ナイチンゲール曰く人若し我身何故に女子投票權の論を信ずると問ひ玉はゞ一言にて答へ申すべし凡そ吾等が拂ひたる所の金を費用する人々を撰擧するは固より當然の事あればなりと

○我國にて女の齒を染るは婚禮定りての事あり黑色は變ぜざるゆへに夫婦の間もかわるまじとの義なり上代には女のみに限らず武人も齒を黑色にす忠臣二君に仕へずと云ふ心ありしなり（牛馬問答卷の一）

女學雜誌第六十六號

明治廿年七月九日

○女學雜誌發行停止及解停

明治廿年五月廿四日午前警視廳より女學雜誌持主に即刻出頭すべき旨の召喚ありたるに付直樣出頭したるに

女學雜誌持主　巖本善治

明治二十年五月廿一日發行女學雜誌第六十五號は治安を妨害するものと認め候條自今發行停止候旨其筋より達有之候に付此旨相達候事

但し該號未配布の分は發賣頒布共被差止候事

明治廿年五月廿四日　警視總監　子爵　三島通庸

右の通り達ありて依て爾後休刊し後命を待居たるに六月卅日午前警視廳より再び持主を召喚ありて左の通り達せられたり

女學雜誌持主　巖本善治

女學雜誌の儀五月廿四日發行停止の處七月一日より解停候旨其筋より達有之候に付此旨相達候事

明治廿年六月三十日　警視總監　子爵　三島通庸

然るに右卅日は木曜日なるを以て前土曜日に雜誌發行の間暇無之即ち本日第六十六號出版す停止中は讀者諸君及び平生同志の方々より或は慰藉の文章を寄られ或ハ諫規の恩言を賜ハり或は特に金圓を寄附せられ或は吾人を招いて宴食に列するの樂を得させ玉うたる事感喜の至に堪へず故に今ま本誌上に於て再び諸君に見ゆるの幸を得たるに際し謹で其厚意を謝し且つ吾人が斯道の爲に盡力するの赤心は決して前日に異らざるとを告げ少か諸君の恩に報ゆると云ふ

●社説

○大英國女王陛下即位五十年祭

大英國女王ヴィクトリア陛下が一千八百三十八年六月廿八日、ウエストミンステルの寺院に於て天命人望に兼應じて萬乘の御位に即かせられたるより以來十九世紀の半世は年々月桂樹の賞環を賜ハりてヴィクトリア王宮の御階下を過ぎ今玆西暦一千八百八十七年六月廿八日に至りて半百の歳華は一齊に整列して玆に陛下が即位五十年の大祭を奉賀す抑も大英國の歴朝明君賢主の世を治し召されたる殆ど代を絶せず今私に其治績を窺ひて之が優劣を定め奉るは尤も恐多き事とハ存ずれ共凡そ女王ヴィクトリア陛下の如く賢明に渉らせられて其恩澤の天下萬民に流布したるハ大英國王代の歴史中殆んど類稀なるものと爲さゞる可らず而して其賢主明君は多くは治世の御運長からず子民の望も乍ちにして消ゆる習と承ハるに陛下は玉躰御歳と共に健にまし／＼て治世長久に渉らせらるゝと是亦歴代に類多からざるとと申すべし故に今ま陛下を母として仰ぎ奉る英國及英領の民幾億万が此千歳一遇の明主を戴きて古今に類多からざる所の祝賀を奉るは天下の慶事之に過たるものあらざる也

抑も陛下の御治世には大亂熄み民力伸び國權内外に張り人權家毎に起りて大英國中物として陛下が恩惠の雨露を被らざるはなし是れ皆な陛下が治世の特に歷朝に立優りて見えさせ玉ふ所とは雖も此外更に一事の最も歷代と變はらせ玉ふものあり蓋し陛下は御身女性の質を以て一天萬乘の高位に登踐し其子民を治めて斯の良績を擧げ玉ふが故に元來不相應の下位に沈みたる人類の半數ハ陛下を其流の頭首と頂き奉りて初て世の明光界内に出現したり之を以て陛下五十年の治世が實際に女性の地位を高うし辨論に女權の伸張を進めたると亦古今に比類なき所あり此故に大英國には明君賢主の出ましたると甚多く治世の半世以上に渉らせられたるもの亦絶無に非ずと雖も其恩澤を蒙る所の民に男女を別たず其五十年祭を奉賀する所の人に數の尤も多きを示すと女王ヴイクトリア陛下に於けるが如きは古來未だ決して之あらざる也

之を聞く陛下が治しめす所の地は坤輿の全面に列し女王の御館内は嘗て日沒の下に沒せずと云へり故に今茲一千八百八十七年六月廿八日の太陽東天に登り日歩次第に西に移ると共に坤輿全面より陛下が即位五十年の大祭を奉賀するの歡聲は二十四時間殆んど絶ゆる所あらじ吾人日本帝國臣民の中に立ち特に我國內姉妹惣躰の列後に並んで謹んで萬歲の慶を奉る祝辭敬を盡さず萬國民の歡聲は殆んど之を沒し去ると雖も東天の紅すると共に最初先づ慶を呈するの幸を得るは則ち吾人が無上の榮譽とする所のもの也

○

外國人が設立する女學校及び日本の紳士富限者

外國の方々が我日本に來りて學校を設立せらるゝもの甚だ多し先づ此の東京を初として西京大坂横濱神戸新潟の如き繁華の土地は言に及ばず東北には仙臺函館より西南は山口長崎の極に到るまで至る所として外國人の手に成れる學校の設あらざるはなし而して此等の學校は何を目的として斯く我國內の所々に散じて盡力さるゝやと云ふに他なし右外國人の方々が其本國に於て取集めたる莫大の金銀を持來り之を惜氣もなく遣拂ひて我日本國の子弟を教育し之をして眞正の人物に養成せんとする信切至極の誠より出づるものなり然るに我邦人中十に八九迄は大抵此の至誠の志を知らず大洋を横ぎり態く我國に來りて學校を開くは何か其人等の物好に出ることと思ひ甚だしきは以て之に敬禮を加へざるのみか此際利失ふべからずとして何物を賣るにも非常の高價を言懸け其校舍を建築す

るにも特更格外の普請料を貪るが如きあり歎息の極なりと雖も此等は先づ下等人の爲す所として少か申譯を致し得るとせんに此の東京横濱の如く內外の事情甚だ明なる土地に住ひ然も文明の摸樣をも心得たりと云へる紳士等にして尙ほ全く此邊に頓着せざる者の多きハ何如ぞや切ては敎育家を以て自ら任ずる諸先生等が我日本人民に代りて謝意を表せられたしと思はるゝことなるに吾人の如きものが敎育上の宴會宴席に招かれて臨席したることは屢々なれども其際斯る外國學校の敎師等が招れて平生の勞の万一を償はるゝ方も見受けず我日本人が此等外國の方々に對する所の處置失敬至極と云ふべし眞に是れ麵包を與ふる所の人に石を投じ魚を贈る所の人に蛇を返すか如し誰か之れを不平とせざるものあらん然るに彼外國の人々は少かだも之れを怨まずいよ〳〵金を輸入しいよ〳〵其校舍を廣くしいよ〳〵吾日本の子弟を集めて其敎育に益す信切を盡さるゝに至りては吾等日本人民たるものゝ頭上に積まれたる炭火は殆んど極熱に達したり

然るに我國の人々は一種の說を作りて其平生の疎畧を辨護することあり其言に彼等外國人は其本國の宗旨を擴めんが爲めに來りてかく盡力するものなれば云はゞ勝手に自己の商賣を爲し且つ相應の給料を其本國より受取りて自分の生計を爲すものなり故に別段之を禮するには及ばじ彼は彼樣にして則ち初て其義務を盡したるなりと云ふ甚だ冷淡なる申分と云ふべし成ほど斯る外國人の盡力は固と宗旨を擴めんとするに出ることならん然れども此目的を以て敎育するは果して我國に有害なりや若し之れを有害なりとせば上政府は斷然これを禁ずべし我等人民は一齊に之れを攻擊すべし寸時たりとも我日本の內地に之れを留め置くべからざる也然るに其實際は大に然らざるが故に外國人が斯る目的を以て學校を管理するは其尤も當を得たるものなりとして學士論客の中にも今は多く之れを公けに論ずるものあり民間尋常の人々と雖も現に其子弟を此等の學校に送りて脩業せしむるにより心中に斯る敎育を贊成する事を承知すべし然らば例令本來の目的は宗旨を擴むるにありとも其敎育にして我日本國に有益なりとならば則ち厚くこれを謝すべきの理ある事ならん尙又當地に來り居る外國人等は只だ其相應の給料を受取りて自己の本分を盡すものなれば之に對して別段の敬禮を盡すに及ばずと云ふものゝ如きは尤も甚しき誤りなり苟も我國に斯る慈善主義の學校を設立させたる彼地の人々に對し遙に之を謝する所あらんと欲せば先づ

此等の人々を代表する本邦在留の外國人に對して之を禮すべし所云る僕に一杯の水を與ふるは即ち其主人を厚遇したるものにあらずや

但し此等一般の事に關して細論するは吾人が責任にあらず今只だ外國人が設立する女學校の事に付て少か平生遺憾とする所を述ぶべし抑も此等の女學校は亦た既に前述する如く一に外國の方々が其信切なる慈善心を以て莫大の金を集め之れを此の日本に送りて數千年間卑屈の極に陷りたる我同胞姉妹を教育せんとするにあり而して茲に注意すべきは我國に設立さるゝ外國女學校の教師は大抵彼地の婦人達が盡力に依りて取集めたる金を以て支給さるゝ者なり故に東京横濱の所々に巍然として高壯なる諸の女學校は其規摸實に宏大にして其教育は行屆き其授業料は甚だ廉なるに從ひ之に費す所の金は一年間に少からざるものあり然るに其莫大の金を取集めたる中には寡婦が一錢二錢の銅錢を貯へて年に若干錢を寄附したるもあり歳入少なからざる貴婦人が特更に其生計を質素にして年に幾何の大金を寄するもあり或は日曜日の安息日學校へ雇はれ幼年の子弟を教へて金を得悉く之を寄附するもあり或は十二三歳の少女が母親より一羽の牝鶏を貰受け所云る傳道牝鶏と名けて之を飼ひ其產する所の鶏卵を賣りて之れを寄附するもあり甚だしきは髮油の料を減じ食料の味を殺いで月に若干の寄附金を爲すもあるなり女流が斯くして取集めたる金は則ち年々莫大の額となれり之れを以て支那印度亞非利加其外へ道を傳へさするの傍ら我日本にも其金の若干を送り又た熱心なる女教師幾人を送られて偖て吾人が見る所の高壯且つ完全なる女學校をば出現したるものと知るべし故に昔し姚坦氏が益王の宮室を見て何處にも人民の膏血の蹟ありと云ひたるに反し吾人は此等の女學校を見る毎に常に其彼地の熱心なる姉妹の血涙を點ずるを認め感激の至に堪へざるものあり

先づ東京横濱の間のみにも斯る種類の女學校甚だ多し築地麻布溪町駿台及び横濱の山手邊に至り尤も廣大なる家屋を認めたらば則ち內に入りて案內を請ふべし其家は即ち此の類の女學校なる事を知らん而して女教師幾人校舍に隣りて住居を定め生徒を取扱ふと甚だ信切、日々德教を施し夜々和樂を得させ恰も家母が其娘孃を育つるが如き教育を與ふるの女學校を何處なりと云はゞ大抵の人は之を前に掲げたる種類の女學校也と答ふべし之れ實際女學校の景況を取調べたるものゝ爭はざる所ならん斯る教育を施こし斯る大校舍を設置し而して授

業料の諸入費は大抵當然の額の半をも要せず故に此女學校が其本國の有志者より貰受けて以て其校の維持となすものは年々少くとも三四千圓に越ゆるとを知るべし然るに此等の女學校に通學さるゝ娘孃を見るに衣服綺羅を盡したるものあり寶玉の飾燦爛たる者あり甚しきは學校の昇降に人力車に乘り倘ほ甚だしきは馬車に乘じて其富を示すものあり而して其人々等が學校に拂はるゝ所の月謝は即ち彼の至當の金額の半にも達せざる程のものに過ぎず之れ眞に錦繡を衣て養育院の厄介と爲るものゝ如し思はざるも亦甚だしからずや例令ひ此等の娘孃自身は年若して事理を辨ぜざるとも其父兄たる紳士及び富限者諸君は少か學校の設立維持に關する所の事情を承知し其拂はるゝ授業料の甚だ廉なるは何故あるかを研究し切ては自ら寄附して相應の授業料を拂ふか或は往來の車代を儉約させ又は衣服身の廻りを質素にさせ以て其學校の精神に對し報答する所あるべし之れ切て事理を知れるものが行ふべき普通の禮儀あらん

吾人は思て此に至る毎に常に吾日本の姉妹に代りて遙かに海外の慈善なる婦人諸君に禮謝し併せて當地に在留せらるゝ女學校の女教師に對して其厚意を謝せざるとなし而して此等の禮謝を爲すと共に心中密かに安んぜざるものあり凡そ女子教育を以て任とする我國人の面々にして敢て實際に女子教育の事を執らず反て外國の諸婦人が一錢二錢の寄附金に因て立たる女學校及女教師に之を一任し去るは義に勇む所の我日本人民が行ふ可き所にあらず故に世の紳士富限者にして女子教育の當今に必要あるを知らんものは先づ謹んで外國婦人の手に屬する諸女學校に對して禮謝を施す所あるべし次に亦自ら奮つて私立の女學校を設立し少か外國の婦人に對して其勞の万一を減ずるの覺悟あるべし吾人は日夜思ひの玆に至る毎に常に奮起して止まざるものなり

● 論說

○女子と衞生（六月十六日東京木挽町厚生館に於て）

高木兼寬　演說　林茂淳　筆記

私は本日始めまして東京に於て斯く多數の婦人方にお目にかゝりまして思ひまするとを述べまする機會を得まして誠に滿足に存じまする。

私が御婦人方をお集め申してお話し申したいと思ッたのハ今日のとでハ無く大日本私立衞生會を明治十六年に創立する

際にも衛生上のことを實際に行ふには御婦人方に及ぼさなければ充分に行き届くことが出來ないと言ひました。然るに都合が惡う御坐いまして本年まで機會がなかッたです。且今日までも東京に於て機會を得ませぬで有りました。尤も企てましたら出來ぬことも有りませぬでしたらうが私の思ふ所と世の中の人の思ふ所と違ッて討論がましくなるから今日まで控へて居りました。しかし衛生會に於て申したことも其の時は極端論のやうで有りましたが三年を出でずして今日其の點に達したことも有りまする。付ては今日申すことも數年を出でずして世の中に行はれるやうになりませうしまた自らも行はれることと信じてお話し申しまする。

私は本年の一月長崎縣下に於て同所の婦人談話會で談話をして呉れるやうにと云ふことで話しをしました。其れより廣島に於て婦人方五百名ばかりの所でお話しをしました（紳士紳商の奥さん方お孃さん方の前で）。其れより京都中學校に於て千人ばかりのお孃さん方奥さん方の前でお話しをし其の翌日も五百人ばかり集めてお話しをしました。其れより大坂北堀の青年會館に於て千人ばかりの前でお話しをしました。これは日本國の講義室では最とも大いなるもので此の所よりも餘程廣い所で有りました。其れより神戸に於て五百人ばかりの前でお話しをし引き續いて尾張の名古屋の東本願寺の別院に於てお話しをしました。此の時には二千人ばかりのキヽテが有りましたがケ樣に大きい日本づくりの家でお話しをするのは空天井でお話しをするやうで聲が外に漏れまして大いに困難を感じました。

先づさういふ次第で御婦人方に向ッてお話しをするのは今まで七たびで今日が第八回で有ります。

私は前以て申し上げて置きたいことは申し上げることに前後が出來て不都合なことが有るかも知れませぬ。元來演説をするに前に書いて置くのが大嫌ひで有るから事によると一方を長くあるいてアトがヘリすることが有りますかも知れませぬ其の邊は御用捨を願ひます。

第一に私が願ひたいことは今甚だ申し兼ねる譯で有りますが日本の帝國はドゥいふ有樣で有りませうか行く行く延びて行く方で有りませうか又は死ぬやうで有りませうか。人の考へによッて色々違ひませうが自分の考へでは死ぬやうです。死ぬやうで有れば此の時には御醫者が無ければならないが此醫者の役目は誰がすると云ふと則御婦人方デあります其の病は

ドゥいふことで起ッて來たかと云ふ譯をしらなければなりないです先づ國が死ぬと云ふことが皆さんにはお分りになッて居ますか知れませぬがお孃さん方にはよくお分りになりますまい。さて國が死ぬると云ふのハ日本の國でお祭等のときに日の丸の旗を立て又ハ軍艦や商船に日の丸の旗を揚げて海の上を行くことが出來ぬようになつたときにハ日本帝國と云ふものハ死んだです。ドゥかさういふことの無いやうにおたすけくだされと云ふのです。

國の死にかゝつたのは貧乏の爲です。たゞに貧乏の爲めだと云ッてはお分りになられぬかも知れませぬが日本帝國のことを能くお考へなさると日本は貧乏に違ひ有りませぬ。其の貧乏はドゥいふ譯から來たかと云ふと人の身躰が小さくて弱いからですタトヒ日本の人口は三千六百萬人あるの三千七百萬人あるのと云ッても同人口なる文明國に比べると價が半分ぐらゐしかありませぬ其れですから人の數で考がへまするとと文明國とハ大層違ふです。何が違ふかと云ふと富の度です。其れで國が死にかゝるのハ貧乏で其の貧乏なのハ人が小さくして弱いと云ふ譯ですから體を大きくし強くするのが貧乏即ち死にかゝつたる國を救ふの道です。

日本人の身躰が今日のやうになッたのは色々な譯も有りませうが其内最も重もなるものハ衣食住の三であります。そこで此の三つのものハ誰が主任者で有るかと云ふと衣服も飲食も住居も重もに婦人の手にあります。今まで此の三つのことを充分にしなかッた爲めに日本の人がコンナに小さく弱くなッたので有ります。ゆえに此の三つのことを充分にいたせば人の身躰丈夫になりしたがつて精神もタシカになり。よく勞働に堪へために人の得る所も次第に多くして國が強くなりますから死にかゝッた國が活かへりて強くなるのです。此の役目は誰に在るかと云ふとコレカラの女に在ると云ふので一と口に言ッて見れば一人の病人が有ッたとして其の病人を活かさうと殺さうと。醫師の手の中に在ると云ふのと同じことで此の國を活かさうと殺さうと勝手な力あるものは誰かと云ふに婦人方であります。實に私ハ婦人方が一致なされば此の國を活かすことが充分にお出來なさるだらうと思ひます。

尚貧乏の事につゐて少々例をお話し申しませぬと分りませぬが先づ第一に着物のとからお話しいたしませう。東京でハ今日のやうに着物を着て皆さんがお出なさると貧乏のやうにには見ませぬが地方でハ銘々に着物を持たない者がイクラもあり

ます一例を申せば五六人の家族にて一二枚の着物を持ち外にでる時にはかはり〳〵にこれを着て出るたぐゐです箇樣な人が此國にあるあひだは貧乏でないとは申されませぬなぜといへば此國は三千七百万餘りの人より成立てをりますから其人〳〵が銘々自分の着物を着て居るやうにならなければたとへ其うちに今日のやうに奇麗な着物を着る人が有つても國を以て申せば貧乏の中間いりは免ぬかれませぬから。

第二食物はドウかと申せば東京や大坂の如き大な都會では澤祉に茶漬の米飯も御馳走のやうに人が考へて居りますけれど身躰の爲めには中々御馳走ではございません。これでさへも田舍にてはできない所がたくさんあります亦所によると穀物をたべない人がたくさんをります。鹿兒島の櫻島あたりでは一年の中に御祭りなどの時にのみ米の御ぜんをたべます然しまだそれならいゝ方ですが北陸道や四國あたりでは麥や米の糠をたべて居る所があるそうです又野山に生えて居る草木の葉や其他のものをたべて居るものが有るそうです。さういふものが同胞の中に有ッてはタトヒ如何に立派な食物をたべる人があつても一般に申せバ國が貧乏で有ると云ふことハ免れられませぬ。ナゼかと云ふと糠がたべたいの草の葉がたべたいのと云ッて米の御飯をたべないのでハ無いので全く貧乏でたべられないものが同胞の中にありますから。

第三住居のことはドウかと申せバ住居も二三十年前よりハ能くなりました。下總の或る所では二三十年も前にハ十石一枚と云ッて田地を十石持ッて居るものが障子を一枚持つと云ふ割合で有ッたのが今でハさうで無くなり昔ハ板床の上に居ッたものが今では疊の上に居るやうになり昔ハ茶釜を自在鍵でイロリの上につるして置いたのが今でハ急須を用ふるやうになりましたやうすです。けれど直き近所の埼玉縣下の或所でハ平常ハ板の間に居てお客樣が來るとゴザを一枚敷いて其上に座せますると云ふ位な所が今でも有るそうです。これと云ふのもつまり國が貧乏でありますから。

第四。第一第二第三のことハ一人一家に付ての事で有りますが尙貧乏の證據は此國にハ道と云ふものが無いのです。さういふと「道は此の通り有るでハ無いか」とおッしやるでせうが成程東京西京大坂の如き都會にあつてハ御座いますけれども田舍へ行くと草鞋がけで無けれバアルケナイ所が澤山ですから馬車や人力車ハ中々通りませぬ。かういふことがアメリカやヱウロッパの文明國に有るでせうか決してありマスマイ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

國には國道と縣道と云ふものが無ければならないのでそがまだ國中にゆきわたりませぬ。國が貧乏で拵へる事が出來ないのです。

また鐵道が東京から横濱前橋宇都宮とかへ神戸から大坂西京大津とかへ出來て大層立派なやうに見えますが外國のに比すと顯微鏡で見て漸く形ちが有るか無いかと云ふ位です。なほ東京と横濱の間ハ別段ですが他の鐵道ハ例へて云ふと東京のい裏屋間路へ人力車が一挺來るとアトは動くことも出來ないと云ふやうな鐵道で向ふから汽車が來るとコッチで待つて居らなければならぬと云ふので立場が有つて人力車が通れなくつて待つて居ると云ふやうなのですから極不便利です。ケ樣な鐵道を上なきいゝものと思つて居るのハ大きな間違です

● 叢話

○舞踏の利害

舞踏の利害何如と問ハゝ一種の人々は直ちに答へて申さるべし此の文明の時世に會ひ何事も西洋開化の風習を移す今日に當り苟くも男女交際の無くてならぬとを知らんものハ亦此の舞踏の必要欠くべからざるを知るべし何も事々しく其可否を問ふべきものかハと冷笑して吾人を不風流の暴男か又は身片環にして此遊に列し難きバイロンの流亞ならんとぞ云ハるべし然るに更に顧みて之を一種の人々に問はゞ此流面に慷慨の象を現ハし腕を扼して罵つて云ハん舞踏ハ文明の地にだも尙ほ有德者の不快とする所なり然るを從來相ひ授受せざる程の男女忽ち相抱き多年席を同うせざる程の人々急に混交して淸潔の樂之より起ると云ふ乎政治家はピットの如く學者はカントの如く武人は武藏坊辨慶の如く婦人方は小野の小町の如く情慾の愛を見ると猶ほ秋草の露を見るが如きの人にあらざる以上は弊害之よりして百出せんと辨論せらる因つてつら〳〵考ふるに右二種の方々は何れも一方に走りて一方の事を知らず而も其利を主張するの所甚弱くして其害を述ぶる所亦淺しと云ふべし斯る論鋒にてハ舞踏を贊成し舞踏を不贊成する双方の面々を滿足せしむるあたハず其辨遂に無効に失するの憾あらん思ふに此事の利害を論ぜんとには先づ(一)能く舞踏の何物たるかを知り次に(二)其歐米に於て何如なる決果を生じ且つ何如なる風評を其世間より受るやを考へ而して後ち(三)現にその鹿鳴館に於て何如なる利害を實際に及ぼせしやを承知するを要す斯して此遊の是非を宣決せバ甲乙二種の人の心

中に隱れて之を口にするの言語なき數多の志想ハ驚くべくも顯然として此紙上に出現すべし

依ては最初舞踏の何物たるかを承知するの一事は先づラボック、スペンセルの兩大家並に英佛米及び日本の新聞記者數名を請ふて其說明を煩ハすこととし次に歐米文明の地に於ける此遊の決果及評判何如と云へることにつきてハ彼地に於て舞踏の害を尤よく述べ盡したるものと其利を熱心に主張したる者と彼此ともに非常の辨護を爲すもの等の議論を法庭に立たせ舞樂會の紳士貴婦人諸氏を恭しく證人の席に招き參らせ我が悲憤慷慨の志士を傍聽の欄内に鎭づめなから讀者を陪審官として吾人敢て自ら之を裁判するを以て尤も簡に且つ尤も便利なるものと議定せり

斯て第一席の陳述には希臘諸神の傍に踊り燃火蟠蛇の邊に舞ふ初代の踏舞より約翰の首を見て舞ふ毒姫を經てパリー、ロンドン、ワシントン、の夜會に至り天の岩屋に踊りたる天鈿女命神より靜御前を經て鹿鳴館の踏舞に至るまで精細洩らす所なく擧げ盡したり然るに之が筆記は當今多事の日に掲載すべきものにあらず他日追て之を公にするの機なるべしとして第二席の景況如何ならんと見てあれバ米國サンフランシスコの一紳士ウイリアムヘルマンは黑の喪服に悲を示し肅然として出席せり其右の手に携へたるはダンス、チフ、デッスと云へる自著の舞踏論にして左手に推き迄の紙を抱きたるハ此書を批評したる諸大家の論文とハ見受たり

ヘルマン謹んで起立し先づ悲壯の容を爲して靜かに申す樣は判官閣下拙者は兼て舞踏の有害なることを確認し之なる一小冊子をば著述致したる儀に付精細の意見は何卒此書に由て御承知被下度と之を捧げ出し乍ら只今は僅に荒增を申して閣下の明察を祈る扨ても拙者事は元來舞踏の何物たるやを心得ずして彼此と非議致す輩には無之抑も少年の頃は毎夜の樣に夜會に出席しあはれ姫御前の御手をも握りて一二應のヲドリを試みたることも之なる者に候が何分之を有害なる決果を生ずべき者と認めたる以上は再び之に臨席するは勿論世上幾多の娘孃壯士が滔々として道德の地獄に陷らんとするを見ては決して默止すべきことにあらずと存ずる儀にて候御承知の如く夜會の燈光眩き迄に照り渡り蛾のはひ出る姿まで見らるゝ折柄音樂の音色なよやかにして綿を弄するが如し何如なる憂鬱沈衰の善男善女も心地自ら飛び上りて足拍子打たうずるとする比に至れば只見る双々相抱いて胡蝶の翩翻たるが如し佳人の頭は

男子の肩に倚りて其好顔男の耳の邊に向へり露はしたる腕は頸をまとひ波立ちたる胸は胸に密接して呼吸出没し足は足にまとひて葛の松に於けるが如し男子の剛の右の腕はシカと女の腰をしめて轉々たるの都度之を吾が躰にひし／＼と壓し付く佳人の流るゝ眼光は常に男子の上にあれども眩きて何物をも見ず音樂われを囃し立つれども耳に其の音をきかず遙に瀧の響をきゝ夢の如く立舞ふと覺へてわが全身いよ／＼男子の五躰に密着す此に至て淑女が固有のはじらひ何處にやある男子の呼吸はわが髪の毛の上にあり男子の唇はわが額の邊に離合す今果た之を恐るべきやハ斯て樂やむ手足則ち離るドゥと椅子に腰かけて扇子遣う手も尙ほ重かるべし………

判事、コレ／＼ヘルマン斯樣なる講釋は法庭には無用であつて只だ聞づらい迄じや確に舞踏の有害なる要點を開陳致せ」

賢明ある大判官閣下、暫時御容赦を請ひて申述度は右樣の次第が若し年若き娘孃方と少年との間に於てこれあり候はゞ爲に眞に高尙清潔なる交を起し文明の交際と云ふて恥かしからぬ程の決果を生ずべしとは實以て得思ハれまじき儀と被存候且又此遊び若し既に夫ある妻と余の男子との間に取組るゝ節は尙以て氣の毒に感ぜらるゝ事少からず令閨は眞に御上手でと賞められアア有難うとは答へ乍ら心中決して安からざるものと察せらるれバ例令ひ寛大快濶海の如き大量の夫にて在らんとも此の遊の爲に夫婦が間の愛情を增とは存ぜられず歸路同車の上に於てやうやく互に心を取かへすと云ふ辛苦も實際には之れある習と承知いたし候然らば舞踏は未婚の人々に取ても賞むべき交際法にあらず既に婚したる輩に取りては決句和樂の故障と相成るべきものかと信せられ扨ては前申すようある說明をも恐る／＼開陳致したる義にて候

成程其方が申す所一應は聞へたが前段に說明したる樣ある舞踏の致し方にてハ双方到底清潔の交際は出來ぬと申す事か簡略に承ハり置たい

何如にも左樣確信する所にて候凡そ人間には肉と靈との二つ之れあり相合して人の一身を造るものに候が人物の高尙卑屈など申すは必竟此の二元素が勢力を及ぼすの多少に由る事と存ぜらる彼の上流の紳士貴婦人たるものは即ち多く靈の支配を受る方々あれば其遊も樂も皆な自然靈の上に於てせらるゝ儀あり決して肉に就たる卑しむべき交等はあらせられざる筈とは定るとあれとも人間は元來甚だ弱きものにて其一身には自ら下等の慾を恣にせしめんとの勵が數多ひそみ居る其摸樣

を云ハゞ乍ちにして肉慾の情を熾んに起さすべき一の彈機之れありこの彈機をば靈の衣を以て温和に被ひたる歟の樣あるもの、處所云る禮に適ハざる過度の行を爲せバ乍ちにして此の彈機か外れて最早靈の力を以て制すべからざる情慾、火を燃やす如くに熾と相成るものなり然るに彼の舞踏の如き其遊自身の性質は固より罪なき小供らしき樂には候へども手の觸るゝ處足のまとふ所唇の接し腰の密着する所遂には平生双方が嚴めしく禮式を守りたる所の心を緩うし一歩一歩と怖れ〳〵しく近づかせて遂には彼のハジキを外づさしむるの地に迄で至らするものなり此に至りてハ最早辨慶の勇も其肉慾の奴隷となり小町のたしなみも徒らと成るべし故に吾等人類ハ眞に弱き者であると覺悟し乍ら扱て互に德を立つるの上に舞踏の利害如何と云ふときは實に戰栗して之を有害と斷ぜざるを得ざる事に候判官閣下伏して明察あらんとを乞ふ

ヘルマンの申分先づ右樣の箇條にて了ると申すか左らバ追て又問ひ質す事もあるべし次に被告人簡略に其信ずる所を申せ但し決して討論がましき事を申すな能く〳〵注意致せ（未完）

Wives are young men's mistress, companions for middle age, and old men's nurses. ....Bacon.

A woman imprudent and mannish grown is not more loathed than an effeminate man.....Shakespeare.

○和文學講義

第四回の上　和歌の事

鈴木弘恭述

余れ先日古人の歌ハ易らかに素直にして唯見聞きたるをそのまゝによまれたれど後世に至りてハ虚飾を旨として詞巧みに詠出らるゝに因りて詠歌事ども知らぬ人にハ文字はよみ得てもその意味の解り難き歌多し是ハ歌を一種の技藝の如くに思ひて慰みの玩弄物にするがゆゑなり故にいろ〳〵さま〳〵の物を取り込みて詠出るハ決て歌の本意に非るなりといふ事を既に貴孃等に概言して置きつれど今日ハ猶詳細いふべし

抑世の人の中には特別に歌道などいひて口傳があるの秘説があるのと妙な事をいふ人もあれバ何事も知らぬものハその傳授を受ずしてハ歌をよむ事ハ出來ざるものと思ふハ甚しき誤なり歌ハ先日もいへるが如く誰れにても容易くよみ得べきものにて其の心に思ふとを口にいふまでのとなれバ我心に思ふとを我口にいはんとするに何の難きとかハある心と口と備へたらん人ハ誰も歌よむべきなり心と口と備へざる人ハ天地間にハ一人も非ざるべし然らバ哥ハ誰にてもよむとを得べしと余が云ハ決て誣言に非ざるなり然ども古へハ一言あるが今は轉訛して二三言となり或ハ變化して他の言となりたるもあり

て今日の詞ハ雅言俚言混淆してなれバ此の區別を知ると彼の詞辭用格を知るとの二つハ少し不容易やうなれども是亦甚難き者にハ非るなり雅言俚言詞辭用格のとも次々に猶云べし

偖て貴孃等ハ皆立派に心と口とを備へ玉へり然らバ頓に哥を詠む事を得べきなれどもその出來ざるハ如何なるわけぞといふに余亦出來ざる理由をいふべし貴孃等彼の小兒を見よ小兒ハ皆心と口とを備へたり然して未だ大人の如く隨意にもの云ふこと能ハざるハ是れその利用を十分に試みざるがゆゑなり然して此の小兒ハ他人のものいふ口まねをしつゝ自然に習ひ得て遂に自由にものいふ事を得べし然れどもをり〳〵に詞の訛誤などのあるをば其の父母傍にありて是を敎授するに非ずや是れ貴孃等が常に目撃して能く知る所なり今貴孃等ハ則ち此の小兒なり詞の利用を十分にすべし他人のものいふ口まねをすべし然るときハ遂に自由に歌を詠出つるを得べし然してをり〳〵詞の訛誤どものあるをバ是れが敎員傍らにありて敎授すべし然して全く一人前の大人とはなるべしさて他人の口まねをせよとハ如何なることぞといふに古人の歌數百首を數十回熟讀玩味ふるをいふなり古人の歌とハ其の歌集類ハ多くあれども古今集をよろしとす古今集ハ大かたハ全璧歌にて簡易にして初學にさとり易き歌どもあり故に余が初學に詠歌を敎授するにハ皆此の方法を用ゐつるに悉く良結果を得たり因りて詠歌を學ぶの法ハ是を以て第一と自定せり

さて是より古人の歌ハ易らかに素直にして唯見聞きたる事をそのまゝによまれたりといふその證を左に示すべし能く玩味て是らの歌どもを摸範とすべし。

山部赤人
田子の浦に打出て見れハ白妙のふしの高嶺に雪ハふりつゝ

是ハ百人一首の中の歌なり此の意ハ駿河國の田子の浦に出て海上をはるかに見わたせバ眞白に富士の山に雪の降り積りたるが見ゆるハ甚だおもしろき景色であるといふことをありのまゝにいへるなり。

猿丸大夫
奥山にもみちふみわけなく鹿の聲きくときぞ秋ハかなしき

是も百人一首の中の歌なり此の意は秋のすゑになりて奥山で紅葉の散りしきたるを蹈わけてなく鹿のこゑを遙に聞く時が秋の中で一番悲しいやうに思ハるゝといふこと

安倍仲麻呂
天の原ふりさけ見れば春日なる三笠のやまにいでし月かも

是も百人一首の中の歌あり此の歌は仲麻呂朝臣が唐の明州といふ所にありてよめるうたあり意は大空を遙に仰き見れば此の月は今夜他郷の空にすみわたれども即ち我が日本の故郷なる奈良の春日の三笠の山に出し月であるかマアといひてます〳〵故郷を思ふ感情を述べたるなり

讀人不知

「春霞たゝるやいづこみよし野の吉野の山にゆきは降つゝ」

是は古今集の中の歌あり此の意は春にあれば霞のたつものであるが春霞の立てあるのは何所であらう吉野の山はまだ雪がふりて春とも見えないものをとなり吉野はとに山深き所なれば春にありても雪の降るとを見てよめる也

素性法師

「春たてば花とや見らん志らゆきのかゝれる枝に鶯のなく」

是も古今集の中の歌あり此の意は春がきたゆゑに雪を花と見るのであらう眞白なる雪のふりかゝれる枝で鶯が鳴くことよとよめるなり

壬生忠岑

「春きぬと人はいへども鶯のなかぬ限りはあらじとぞ思ふ」

是も古今集の中の歌なり此の意は春が來たと世間の人はいふなれども春がくれば鶯が鳴く筈ヂヤに因て鶯の鳴ないかぎりは春がきたのではあるまいと思ふといふことゝ也

まづ是らを見て知るべし古の人の歌はかやうに易らかに素直に詠なして少しも飾りたる所なしこれは寔に心に思ふことを有のまゝに述べたるなり歌はかやうによむべき事あり

さて是より二三百年經て新古今集の頃に至りては歌は一の技藝の如くになりて人々競ひて巧みある歌を詠出さんと搆へたるが故に其の意は妙巧非凡に至りたれども其の姿は虚飾りたるが多くありて古の歌の如く心に思ふことをありのまゝに詠出るなどいふ事はなくて針ほどの事をも棒ほどに飾りていひなす類の歌が流行するに隨て平凡の人の詠出したるは歌の數には入ることをえず文才ありて人の意表に出るほどの巧ある歌あらでは世の人賞玩せされば此の道に巧みなる人のもとに就きて是を工夫すべき術を求め種々の珍らしき詞を取り込み再三加除し再四吟詠して是を練磨し偶ま得意の歌一首を得れば友人に示して慢り世人に示して賞賛を得んと心掛たり是に於て詠歌は一種の學問となりて秘事口傳などいふ名目を付して搆へて容易よむべからざるものとなしたり是れ此の風世に傳染して今日に至りても既に貴顯等が知らずながら詠歌は難

きものありといふ思想を起す原因ありいま新古今集の中よりその妙巧なる歌を左に示すを能く玩味ひて知るべし

源具親

難波がた霞まぬなみもかすみけりうつるもくもる朧月よに」

是ハ攝津の難波にて春の月を見たるさまにて意ハ涙ハ霞まぬ物と思ひて見て居た所がつひにボンヤリと霞みてしまつたハ何のゆゑぞとよく〳〵見れば波に移れる影までもくもりてある朧月夜のせいであつたよとあり(未完)

○新富座の演劇を觀る

女學氏停止中の暇に乘じて常に無き鬱散の遊を爲す偶ま新富座の演劇此度は意外に當りて近年になき大入ありと聞きて或日行て之を觀る第一番目關ヶ原神葵葉七幕悉く面白くなしと雖も大切の西東戀取組は言に及ばず彼の高らかに聞え渡れる勸進帳も之と云ひて新に批評すべき所なければ先づ初番の七幕を以て少か當日の感を洩すの地と爲さゞるを得ず

抑も此の七幕は關原軍記を骨子として成べく實傳に違はざる樣とを旨としたれば初幕伏見城内大廣間の段より最後鳥上山絶頂三成就縛の段に至るまで前後の脈絡貫通せず之を演劇として美術的の觀察を下せば實に近來になき拙作と謂はざるを得ず今ま其一例として尤も不平に思ふ所を申せば七幕の中先づ愁歎を極めて見物の感情を動かす尤も切なるの塲は即ち細川家の奥方敷波が義を守りて自殺するの一段なるべし之は元甚だ有名の事跡にして我國從前の女が烈女の鑑として毎度賞めそやす所のものなり夫忠興出陣の砌能く留守せよと命じたる城を立出でヲメ〳〵反逆の兆ある三成の城中に囚はれんと思も寄らず然らばとて又此城を棄てゝ命を貪らんは武士の妻として耻辱之に過たるはなし此上は潔よく自害して夫の面目を立つると云ふ其覺悟甚だ立派ならずや蓋し此夫人は嘗て太閤が無禮なる招待に對し然らば匕首を所持して御目通りせんと申したる烈女にてあれば斯る終を遂げて名を末代に留めたるは固より當然の事と云ふべし此度の興行には團十自ら此役に當りたれば其藝と云ひ品格と云ひ固より申分なし輙た當時の景狀を想はせて涙の潸然たるを覺へざらしめたり因て考ふるに其上忠興が之に慷奮して大に三成を怨み且つ既に公の敵とありし上はとて彼の關ヶ原の合戰に大の働を爲したると甚た明なり故に若し此の一段の筋を引て前後の脈絡と爲さば餘程面白き趣向も出來たらんものを當興行の趣き反て此に出でざりしは如何のものにや成程左團次の忠興は妻の死を慨き三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

成を怒りて比類なき慷慨を爲したり武士として眞に斯くあるべく最愛の妻が非道に會ひたりとしての腹立は實に無理ならず見へたり然るに此忠興は其後の幕に於て一度も顔を出ださず三成を罵り三成を責め三成を縛する者は悉く他人の手に落ちたる上に關ヶ原の合戰にても遂に忠興の名を聞かざるは遺憾至極の事と云ふべし斯ては先の慷慨は必竟影辨慶の小言に過ぎず實際何の效かあらん忠興たるもの只一の腰折武士として見らるゝの外なきものなりト斯樣に此度の興行を評せば則ち亦別に觀る所あるを知らず然れども此類の意氣地なさは素と世間の活演劇場に於ても往々に實見する所と云はゞ必ずしも新富座中の趣向をのみ責むべきにはあらざるべき歟

○批評　(第二十三回)

(27)細君の友　中本一册二百十三頁定價五十錢　發兌所東京神田雉子町　輿論社

此書は英國ドイグ夫人の著と云へるを井上勤氏が抄譯ありたるものなり全篇七章ありて小兒の養育方より僕婢の扱ひ方に至るまで細君の心得となるべき箇條數多を說き示し特に言辭平易に譯文流暢なれば婦人方の購讀さるゝには適當の書なるべし但だ奇しと思ふは之を何故に細君の友とは題せられたるにや若し名にし應うと云はゞ切めて夫に仕うるの心得一節だにありたく思はるゝものを万事大抵母となりし後の心得にて終れるは遺憾ならずや特に又憾みとすべきは玆ぞと思ふ大切の箇條を最も淡泊に述べ去りて恰も小學地理書に名所古跡の記事を讀むが如き心地するにあり之れ小册子にして大躰を敍するもの丶免れがたき所歟然れども此類の書他に甚稀なるを以て我女流の珍重と相成るべきは論なかるべし因て書中の佳所二節を左に抄して全篇の趣向を示す

例へば千万人の軍勢が敵に打ち負けて或は截られ或ハ殺さるゝ噺を聞くとも餘り悲しく思はざるものなれども此軍勢の中にて若武者が敵に逐れて此處彼處を彷徨よい或は手傷を負ふて身躰血に染み將に打死せんとするか如き狀情を見聞するときは實に悲歎にくれて仁愛の心益々盛んなるを覺ゆべし子供に於けるも亦然り故に小兒をして誰彼の別なく一般に貧乏人を救はしめんと欲するも更に益なくして之を救はんと欲する仁惠の心起らざるべし去れど若し一人の人を指して彼は貧乏なり如此の難儀難澁をするものなり故に救助せざる可らずと云ふときは小兒ハ大に感動して自ら之を憐れみ自ら之を救はんと欲するもの也是れ子供に仁惠の心生ずる端緒なり

婢女は其主婦の機嫌よきを見て樂しみとするも決して其怒れる顏を見て悅ぶ道理なければ心には只管ら主婦の氣に入らんとを願ふ者なれば其怠惰なると思慮なきとに因りて主婦の心を損するとあれども心に詭計て斯く爲すものは甚だ稀なるものなれば婢女の性質を善くも見極めずして婢女の過ちは心の善からぬに因るなどゝは努思ふべからず

●佳傳

○大英國女王ヴイクトリア陛下の傳

女王ヴイクトリア陛下はケント侯エドワードの御娘にして一千八百十九年五月ケンシントン宮に誕生あり今を距る五十年の昔し御歳十八にして大英國の王位を嗣がせ玉ふ今年寶壽六十九歳に居まして玉脉年と共に御健なれバ玆に五十年の大祭を壽ぎ奉る忠深き英國民等が幸は何如ぞや實に譬ふるに物あらざるべし

抑も陛下の高德は天下に隱れなければ遠く海を隔てたる吾日本の人々に至る迄て夙に其賢明の御樣姿を伺ひ奉りて常に忘るゝものなし況してや吾等が姉妹達に取りては陛下を見奉ると更に別種の喜あり日夜に之を思ひて女流に斯る御方の居ますとを誇り續るなるべし左らば今更めて陛下の傳を物するは殆んど其用なきが如しとは云へども人若し之に依りて陛下を祝し奉るの念を懇するを得ば則ち幸ならん

扨も陛下が世を治しめす五十年の間は大英國の記錄に於て甞て見聞し及ばざる程の繁盛をば其御領內に現はしたるのみか英國の威勢は四海に及びて至る所陛下が御支配の感化を蒙らざるはなし然れば今若し一々之を記さんとせば恰も是れ英國半世の歷史と近代の萬國史とを叙するに均しく到底此紙面に得盡すべきにあらざるべし特に此等は皆な公事にして天下人の普く知る處なれば吾人は今之れを略して世の歷史に代言を委賴すたゞ陛下が人の妻とし母としての御行甚だ至れるの美事は人多く之れを知らず然も大英一國民の家族に淸潔の交際あるは元と陛下が一家族としてウインゾル城中に現し玉ふ御鑑の反照するに由れる趣を知る人稀れなり故に今は僅かに此事を記して陛下が高德の外に顯はれて偉大なるが如く亦た內に密みて優美極りなきものあることを示すべし

抑も陛下が夫として侍き玉へるは普魯士亞の皇子アルバートと申し陛下とは御從第同士に居ましたる才華俊秀綠眼威容の御方なり一千八百三十六年十七才の比ろ叔父君に伴はれて英

國に遊び初めて陛下と相見へたるが當時陛下は尙ほケンシントンの宮に住ひ御歳未だ十七にて花の盛りと見奉る御容姿ありしのみか其好ませ玉ふ所の音樂繪畫は亦是れ皇子が平生尤も嗜しまれたる所ありしかば此折すでに御二方の御交淺かゝらざりしとなり加之叔父君レヲポールドの係は此の兩姪が相約して一生の友とならん事を祈り時としては打明けて迄陛下に勸め玉ひしが尙歳若ければとて墓々しき御答もあらず過たり然るに其翌年に至りウイリアム四世忽焉として世を去り玉ひ陛下直ちに御位に登らるゝこととなりてよりは斯る談議も其儘に中止したり然れども寶緣空しからずして後に皇子が再び英都に遊ばれし折遂に御結約を濟せられて千八百四十年陛下皇子ともに廿二と申したる年に目出度御契を結ばれける

之れよりしてアルバート公は心を盡して陛下の幸福を增さんとし陛下は外に英國女王としての尊位を荷ひ乍ら凡そ人の妻として夫に仕ふ可きの道は何事も悉く之れを公に盡さんと契ひて朝夕の御交言ふも恐多き程にてありき或時は共に馬を驅て公園の草の露を拂ひ或時は深殿に琴の音を合せて風月のすゝやかなるを愛し玉ふ又其間柄の情は公が御友人にして日耳曼に歸らるゝものある節陛下が公の御心根を察して淚にかきくれ乍ら申されたる一言の中に溢れたり

今御友人と別れ玉ふ吾夫は如何に心悲しくや思し召さん我一身の爲めに御父御兄弟住なれし故國を振り棄てゝ玆に居ませば吾身のみ世に上なき幸を得侍る此上はたゞ得べき限り我夫を幸にして切て其御誠に報ひ申さん

陛下嘗て御病に罹らせらる一天萬乘の君に居ませば侍づくものもとより數を知らず然れども其御床より玉躰を上げ下して介抱さるゝは即ちアルバート公あり公は決して之を人手に任せ賜はず終始傍に在りて看護ありしかば陛下が後に其日記に記し玉ふやうは

世に吾夫ほど信切に居ますはあらじ何如なる折も我身を介抱して寸時も離れ玉はず

右は陛下が妻としての御行なり然るに陛下は御子數多あれば母として之れを育て玉ふの御覺悟も亦た忽諸ならず兼て育兒は女たるものゝ行ふべき最大の責任なりとして屢ば御自身に其御心得を認め玉ふとありき云く

最も大切の敎は子供を成るべく質素に且つ成るべく家風に育つるに在り又其日々の課業に差支へざる限りは成べく兩親と共に在らせて萬事につけ親に信を置かする樣に持なさ

ゞるべからず

又た公の御用繁くして自ら皇女を敎へ玉ふの餘暇少うなりし折其御姆たる人を戒しめて仰さるようは

何とぞ彼兒に神と宗敎とを大に尊崇さするように敎ゆべし然れども只だ神を寅れ懼るゝのみにては宜しからず之を天の父として愛し懷つき申すように敎ゆべし又死及び來世の事を恐し氣に物語りし又之れに宗旨の區別なんどを知らすとあるべからず

陛下が母としての御覺悟は此等の一二事によりて能く海の如き御心の內を推し得ると云ふべし嗚呼大英國の女王は亦たウヰンヅル城中の妻にして且つ母あり

大英國女王ヴイクトリア陛下の肖像

（右本年出版女王傳紀中の挿圖を轉刻したる者に係る）

上に斯る尊き例しありて億の民草は其風に靡びき從ふ英國に良き家族あり良き妻あり良き母ある事眞に其由縁ある也

● 小說

○薔薇の香

月の舍　しのぶ

第一回

精氣去つて骸に魂なく
艶極つて花に香なし

天王寺五重の塔の邊に打建つたる一構は床しからぬ板間地上僅かにして三方氣儘に雨風を通す最と哀れなる會堂なり現世の緣盡き果てゝ諸行無常の鐘を鳴せバ今入りの死客かの世の知人に送られて來る煤びたる天幕をかけ渡して香花を眞中に押し立て棺を其後に寢かして偖て留別の式を行へば賢しこみかしこみ申すとぞ云ふ神ろぎの主人拍手の音に殊勝らしく生前の德を贊し死せるにあらず眠るなりと慰めつゝアーメンと證據鳴らす耶蘇宗の宣教師時得貌に其道の効德をや述るなるべし實に人世は露の如し榮華富貴は一滴の虹と現じて七色光の珠と見ゆ乍ち風吹て飛で草葉の上より落つれば遂に其影を知らす人誰れか死なからん死して土中の客とならざるもの殆んと稀れなり

櫻花殘りのう咲て只見る一朶の雲の如し門を入てより一二丁が程其下影を行けバ此花少かの風にチラ〳〵と散じて雪の如し景色得も言ふべからざるなれど此處を天王寺墓中に入るの道と聞けバ何となく哀れに覺へて落花亦自ら無常のはかなきを示す然ど今日は特更に麗かなる日和にて人の心の浮立ち氣なれば今ま送り來る一行の面々は誰が永逝の行途にや伴うらん數多ある會葬者中には定めて父を失ひたりと見ゆる面影やあるべし母に離れたりと悲める樣子やあるべし然らざるもかの親愛する所の友人を奪ひ去られたりとの歎は大凡そ玆に送り來ると云ふ程の人の心に無くてやはあらんとぞ思ふに先づ眞先に四五對の花を擔ぎて白丁つけたる男八九人は切めて紅葉を燒きたりと云ふ無情の人にも似つかず列を亂して叱らるゝをつぶやき乍ら、エヽコー矢鱈に八釜しく言うジヤチーカドウセ老人も早桶ものよ、コウ、サツ〳〵と行かチーカ、ハイー〳〵。神主は今日ばかり法被着たる車に乘せられ快ちよく搖られて睡氣を催し乍ら借衣を皺にはせじと掛念がほなり、棺を擔う人足どもは最と切めて謹みたらんにはと思ふに、合棒コイツは並大躰の肥り樣ジヤチーせ、ナンデモ價の知れねへ米エ食つぶした奴等よ、官員だと云ふジヤチーカ、ウ思ひ出した大食官とか云つたとよ、道理で重へぞ先立ち玉ふ吾夫の魂かへす返魂丹藥の

効驗アッタあら三十にあるかあらいで慘たらしうコウモ早うは失せまいものを思へば去年の恰度此頃向嶋での花見の歸りワケもあいのにツイ飛んで落ちてハマッタあの帽子もしや不幸の前兆と知つたら覺悟もあるべきにト目を泣きはらす嫁御寮つゝく一二の車ばかり最とぞ懐めりて殊勝らしきが早やがハ〱と歩行だちの親族俗吏書生連お家出入の商人まで誰を送ると思うらん勝手氣儘の高談、コレハ高橋君先日は御榮轉でお目度まだお禮にも出ませんで貴君もあが〱の御出張定めし旅費の過半は驛遞局の貯金課へ、ナカ〱以て長官が例の遊びづき判任の滯在費で奏任のお合手溜るものジヤありません、成程貴君の御氣象で此斗りは負んテナコトで御一所の愉快是亦一層の御樂で。源兵衞さんレコはアレデ幾歳でせうナ、まだやう〱取ッテ二三サ、惜しい御家さまサチ、ナニ何時まで御家さまで居るものかチ、ナンデス旦那とはなか〱の仲だと申しますジヤありませんか、由來一朝一夕の談ではゴッセン、ハ、餘程の根丹と來て居るかい。ヲイ澤邊翌日の用意は出來たか、ドウセ休みよ、休と云ヤー今度の教師は無暗に正直な奴ジヤナイカまだ一邊も休みやシナイデ、ソウヨ君はアノ香奠を上たか、ドウシテ、遣らあかつたのか、まーづ

斯て例の會堂に到りぬ神主齒屎臭き口に覆面して垢着きたる手を厭慮なく差出し三方を捧げて數多度び供物を持運び乍ら可笑き程に殊勝貌して持てあすなり。了つて荒蓆敷きたる上に坐を占めて二回糠づきばつたの如く禮拜しをそる〱祭文を取出して高らかにこそ讀上ける其聲高天原に達すべくもあらねど吾等が耳にはよく聞へたりたゞ何事を言ふらん其意味すべて分らず死せるものの例令ひ靈ありとも生前斯る文章に慣れたりとハ覺へず今定て了解しがたきをや憾むあるべし悼み恐みて申すパチパチ儀式則ち了りぬ交る〲棺前にうづくまりて燒き立る香の煙いたづらに薫すかの人は平生煙度を惡めバ之をしも左程喜びハすまじ意味もあき事するよとつぶやき乍ら強いて例にしたがふ一人の少年ハこれ衆に異りて憂欝に見ゆる某と云へるものあり最前より數度び慷慨して幾度か眉邊に波を打たせたるが此時尤も堪へがたき樣姿して會葬者の面々を一瞥したり

此時ふと少年の目に留りたる一人の少娘あり少年平生憂欝に沈みて婦女子を見ると恰と男子の如く男子を見ると猶ほ木塊を見るの思ありと云へバ今年二十四五歳と云へど未た優なる情味を知らず死して此送葬の折に當り何として其眼中の視點

を久しく留むべき佳人あるべき但だ此際更に注意して數度びかの少娘を打見やるはそも〳〵彼が容顔の美なるにありその服裝の綺羅を盡してあたりまばゆきにあり差して愛ひたる樣も見へず媚を呈する眼中の甚だすゞしきにあり保姆と見ゆる婦人と屢々さゝやき合ひて人見よがしと見する容姿の心にくきにあり少年ぢつと見つめて思わず吐息し女もし美なるが故に尊しとせば櫻花の美にして淡泊なるに如かず衣服の立派なるが故に愛すべしとせば野の百合の花の裝ソロモン王榮華の飾にも優れり日西山に沒して烏は鳴くことを知り鳥部山の煙人失するときは轉た立ちがたしと聞きたるに友人の沒するも心を動かすに足らず知人の逝くも情を悲うするに足らずとせば鋭敏なりと云ふ婦人の神經も亦た賴むに足らずあゝ〳〵誰れか人生の眞相を知るものぞ茶毘一片の煙既に舞ひ來らんとして尙は肉慾の婢僕たるもの天下滔々として是れありあゝ〳〵止みなん〳〵と大息ついでふと面を上れば人々は早や墓地の方へと出で去りたるあり

Oh, Woman! Whose form and Whose soul
Are the spell and the light of each path we pursue,
Whether sun'd in the tropics, or chill'd at the pole,
If Woman be there, there is happiness too.

Moor.

● 寄書

○日本女服の事

米國ブラインモール大學校　ミス、アリス、スミス 寄送

過る數年の間だわが米國にて衣服改良の為に盡力するものあり故に一世期前に於て甚だ賞美したる蜂尾風の優なる腰ハ今日に於て最早宜しからざるものと爲り抑も眞正の美術の上よりして申さば女が腰の邊に於て少しく曲りたる裝を爲すヿ眞に美しき事にはあれども然ばとて彼の近頃の流行書物に見る如き腰細の風は決して之と同樣の者とは見做すべきにあらず彼の腰を特更に細くするは啻に美術の上に於て宜しからぬのみにあらず之よりして衞生を損するヿ眞に多きものあり蓋し腹内の諸臟之が爲に所を變じ又呼吸迫りて空氣を取るヿ少く尙ほ消化の働も亦た減ずべきなり

此問題につきては申すべきヿ甚だ多くあれども今は只だ日本の婦人方に一言の忠告を呈し置くべし凡そ文明國の服裝を御取用ひあらんとならば彼の腰を細くするが如き野蠻の風俗は決して御眞似あるべからず之は彼の支那の女が其足を小くするよりも尙ほ惡しきものと爲すべきが故なり

編者云く、スミス孃遙に此書を寄せて我國の姉妹がコーセットを用ゆるの弊害を告らる信切謝する所を知ず只各々方

が其厚意を空うせざらんことを希ふのみ

○米國よりの通信　和崎義路

左の報告在米渡邊鼎氏より通信有之候中より抄出して差上候尙同時に報道ありたる束髪の景況は御社雜誌停止中に付不得止讀賣新聞へ投じ速に掲載方委托仕候我束髪會の會員諸君は何卒該新聞紙上にて御承知有之度候也

婦人の喫煙。歐米婦人の喫煙するもの寡なきは一の良風俗にして男子が婦人の前にて喫煙するは不良風俗と云ふべし之に反して我國の婦人は喫煙せざる者稀れなりと云ふも過言に非ず予輩常に目撃して不快に感ずるは彼の汽車等の室内にても日本人は婦人の居るも憚からず平氣にて喫煙するのみならず婦人も亦た屢々煙管を出して共に喫煙し煙の室内に充滿するをも恬として顧みざるものあるは眞に見るに忍びざる野蠻の風習と云ふべし何れか禁烟會を設け之を改良したきものなり

接吻の禮。歐米人より考れば接吻は親密なる愛情を表するの良禮法なりと云ふ可しと雖も予輩は寧ろ之れを野蠻の風と云はん何となれば人間社會には言語あり行ひあり決して愛情を示すに苦しまざるべし何ぞ接吻を要せんや現に米國に於ては大統領より令を下しパブリック(公然)に於て之を行ふ事を禁じたり殊に接吻の爲め危險の傳染病の媒介となることあるは世の知る處にして實布的里亞の如きは病を口よりよく傳染した る例少なからず我邦にては未だ此の風習の行なはれざるこそ幸なれ決して之の風習を倣はざるよふ注意すべきなり握手(Shake hand)も禮なり接吻も禮なり握手にて足れり何ぞ接吻を要せんや

婦人衞生會。米國ニウヨルク府の婦人衞生會は頗る盛大にして既に去る五月全會よりしてニウヨルク府の衞生事業は一切同會に於て擔任せん事を全政府に出願せりと實に其の勢力の盛んなる推して知るべきなり我邦婦人社會も衞生の事に少しく盡力せん事を希望するなり

ミカド、スタイル。過日日本のある新聞(多分時事新報ならん)に米國にてミカド、スタイルと稱し婦人の頭髪の「ピン」の少しく出でたる束髪の流行する由米國より歸りたる人の話ありとて記載ありし由に聞けるが「ピン」の出でたる束髪は昨年來日本に於て我々が記したる上げ卷きの事にて後ろの方少しく高くなり居る故に斯く申せしならん此の上げ卷の事は過日の通信に申上置候

○日本家内の遊戯　高等女學校卒業生　松本榮子

裏面の英文は榮子が高等女學校に於て朗讀ありれる者也

Japanese Home-Amusements.

As a bow needs to be drawn to its full tension, when aimed at a mark, so man needs his full strength of mind and body when engaged in labor. As a bow can not be always stretched without fear of losing tension, neither can man work all the time without being weakened by constant labor. Amusement is especially necessary for these who constantly use their mental power, more than for those who are occupied physically. Different as are the languages and customs of many countries, it seems remarkable that there are resemblance existing in some of the Japanese games to some of the foreign ones. As it is with other countries, Japanese Amusements are devided into many sorts: some requiring mental experience, some physical, and some both. There exists a slight difference in games adopted to the class and age of people playing them. Some games are played by the hands, some by the feet, some by both, and others by using the brain the most.

Most of them need more or less practice before they can be played, skilfully, especially those games requiring strong mental effort like checkers, chess, and sugoroku.

Under those that need handskill, come hand-ball, battle door and "ken" which is played by the hand using some signs which have a special meaning. Although this is thought a little undignified, it is good for exercise owing to the motion of the hands in this way and that. This game is played by two persons at a time. A hand-ball is made of cotton with pith centre and thread outside. It is to be struck at the ground or floor rather than to be thrown in the air. The shuttle-cock is made of feathers put in a seed of "Mukurenge."

This game is more energetic and beautiful than any of the rest, as we breath fresh air every time we raise the board, and it is also agreeable to look at when played by many person together.

Cards playing is one of the most popular among the new years games, and is played even on ordinary days. The most amusing and dignified of them are the poem cards "Utagaruta" with selections of Japanese poems arranged upon them. One of the many ways in which they are played, is by scattering all the cards on floor or on any thing in the middle of the party, and then by being taken up as quickly as possible while some one reads aloud the same poems from a book.

The one who gathers the greater number of cards is the winner of the games. Chess and checkers come under the head of mental games and need some practice to acquire skill. In Japanese chess, small, round white, and black stones are used on the board.

This quiet and yet lively game represents a battle-field.

In it, the opponents try to beseige one another in order to widen their own fields. Those who engage in this game become absorbed in it, and we often hear this expression chess and checkers make himself, and all his duties. The game that we played in child-hord remind us of innocent and happy days long past. May we not here gain a lesson for the future? If the plays of youth linger so long in our minds, will not the studies and advantages of more mature years (such as we now enjoy,) be a contstant reminder of the gratitude due to parents, for such privileges.

To our teachers we also owe our most heart-felt thanks, for their patience with our inexperience, and their earnest efforts in assisting us to overcome our difficulties.

YEI. MATSUMOTO.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○文苑　鈴木弘恭大人撰

初春鶯　松平まつ子

ときしらぬものとハいはじ春されば　まつもみどりのいろをそへけり

春月朧　牧野常子

春のよのかすみにしづむ月かげハ　花だにしらぬにほひありけり

花間鶯　下田歌子

うぐひすの聲のさかりも過ぬまに　わか葉見えゆく庭さくらかな

尋見梅　間宮八十子

たづねきて梅さきたりといふ人の　こゑにこたふるうぐひすもかな

首夏　朝山豊子

をしみあへぬはるのなごりもとめてけり　青葉かくれのうぐひすのこゑ

池蓮　土屋都子

大和なるつるぎのいけのはちすはの　ぬけいづる夏となるゝ涼しき

待郭公　古宇田淑子

あしひきの山ほとゝぎすいでやとて　わかまつさとに一聲もがな

同　廣瀬壽惠子

月かげもかたふきはてぬいつまでか　はつ聲をしむやまほとゝぎす

同　石川呂久子

ほとゝぎすけふもきなかすあすはやと　かたらひくらすさみだれの空

同　入澤伊擧子

きのふけふまてともきかすほとゝぎす　こそは此のころ鳴にしものを

曉郭公　華頂宮御息所

夏のよのあくるくも間のほとゝぎす　まくらの山にをちかへりなく

田家郭公　土屋光子

しづのめがうたふ田うたをしつめつゝ　一ふしたかくなくほとゝぎす

鶴　近藤捨子

つゆしもをいく年かさねかさねても　すがたふりせぬつるの毛衣

硯　萬里小路周子

波かぜもたゝぬすゞりのうみになど　うることかたき玉藻なるらん

入湯に誘ふ消息文　塚本ふじ子

あらかねの地もさくべき此頃の暑けさにて世の人もたへかねぬるにやあるハ箱根あるハ日光などへ出立いそぐと聞はべりしがこゝに熱海のいで湯なん世にいひはやさるゝかひありて其しるしいみじとかはやうふたり三人のともだちらものして侍れバわらはも暫時のあひだあつさわすれがてらにものせばやとおもひ立はべれど御もとにハいかゞにろ御すまひハ池の

いひろうつくりなし窓の竹きよらにえげりおいて世の外にかまへたまへれバかゝる田舍たちたるおたみおとにハみ心もすさまずおはすらんとはおもふものから同し心にもおはしまさバもろともに出立たまはんことこそ願ハしけれいとうちつけなるわさにハあれとかうけたまはらんとてかくなんおなかしこ

●新報

○女王五十年祭祝詞　大英國女王ヴィクトリア陛下は世を治しめすよすでに半世なり其間數多の御勲ありて英國は今日此頃の隆盛に趣き歷朝の明君中にも別けて立優りて見へさせ玉ふ御方なるが今年其御即位五十年の祭ありとて英領の土地ハ申すに及ばず所々にても亦相應の祝詞を呈し之を賀し奉るととす然るに陛下が御治世中特に女權の伸張for たると著しかるが此ハ元と陛下が御女性の身を以て高位に登蹊し斯る德澤を施し玉ふの故に由ると申せば吾が女學雜誌社ハ去月廿八日即ち陛下御即位の紀日に一篇の祝文を作りて之を呈送し日本姉妹の惣躰に代りて之を賀し奉りたり

○大家の寄書　女學雜誌には向後論說の欄內に特別寄書と云へる一部を置き兼て時々論說を寄せらるべき旨の約を得たる大家の寄書を掲ぐべし則ち今度此の約を辱ふしたるは左の方々なり　(順序不定)

中村正直君　西村茂樹君　穗積陳重君　巽作佳吉君
島田三郎君　田口卯吉君　宇川盛三郎君　那珂通世君
ツルー夫人　ピアソン夫人　中島とし君　植村正久君
小中村淸矩君　鈴木弘恭君

○親族交際會　五月六日金谷昭君の發起を以て富士見町富士見軒に親族交際會の發會を開く前島密藤島正健宇川盛三郎田口卯吉木村熊二成瀨正忠湯淺節德富猪一郎中原貞七金谷昭等の諸氏及各令夫人來會あり弊社の巖本も亦招かれて會す宴食後前島君議長となりて規則を議定す其主なるものは曰く本會は規律を立てゝ親族の交際を爲す曰く泰西の簡易なる禮式を採用す曰く其他交際法に關する諸般の件を議定す曰く會員は夫若くは妻あるものに限る曰く本會には飲酒を禁ず等なり又本月二日は其第二回を開れたるが惣て規則嚴にして時弊に副ハず眞に末頼母しき交際會なり

○高等女學校　去六月七日同校に生徒方の試學會あり各級の方々或は暗誦し或ハ會話して平生の學業を示さる其中第一級生松本榮子の論文は最頁の出來なりとて大に喝采を博されたり請ふて本號の寄書欄內に掲げたれば就て覽らるべし猶は昨日は卒業證書の授與式あり次號に細錄すべし

○櫻井女學校東洋英和女學校　右兩校ともに去七日午后三時より生徒方の試學會あり何れにも參觀したれとも其景況は次號に記すべし

○東京女學館資金幷其使用　上流の紳士方が發起さるゝ東京女學館は準備追々に整ひ既に地所を赤坂門內に買入れ敎師を英國に委賴されたる由なるが其資金及使用の見積は左の如くなりと云ふ

女學館資金幷其使用

金拾萬圓　供資金額
外ニ金貳千圓　右募集中利子見込
計　金拾萬貳千圓
内
金三萬圓　創立費
金壹萬貳千圓　創立四ヶ年間補助
金六萬圓　積金

東京女學館創立費豫算

金壹萬圓　校舍建築
同壹萬圓　寄宿舍建築
同壹萬圓　裝飾、家具、器械、垣等
内
金貳百五拾圓　客室裝飾器具等
同千參百圓　ピヤノ四個
同百貳拾圓　オルガン一個
同貳百拾圓　圖書室器具裝飾等
同千七百六拾圓　寢室十六間器具裝飾　一室百拾圓宛
同貳百拾圓　座敷三間器具裝飾　一室七拾圓宛
同四拾圓　ボール器具
同四百五拾圓　三拾六人前食事道具
同百八拾圓　庖厨器具
同五百圓　敎場器具
同千圓　物理器械
同五百圓　化學品
同千圓　圖書
同二千四百七拾九圓　門、門番住宅、井戸、庭園、垣等

每年經費豫算

金千貳百圓	外國助教師二人給料
金四百八拾圓	本邦人英語教員二人
金八百四拾圓	月給四拾圓ト三拾圓ノ日本語學教師二人
金貳百四拾圓	醫學助教師一人
金百貳拾圓	裁縫教員一人
金百貳拾圓	習字教員一人
金三百六拾圓	書記一人
金百貳拾圓	料理人一人
金貳百八拾八圓	小使四人
金百八拾圓	下婢三人
金七拾貳圓	園丁兼門番
金三千八百四拾六圓	寄宿生二十五人ト敎師四人ノ賄
金六百圓	薪炭油
金四百圓	圖書
金六百圓	保險料
金二千五百三拾六圓	修繕等臨時諸雜費
總計　金壹萬貳千圓也	

收入豫算

金四千五百圓	生徒百二十五名一學期拾貳圓宛三學期授業料
金四千五百圓	寄宿生二十五名一學期六拾圓宛三學期寄宿料
金三千圓	積金六萬圓ノ利子
總計　金壹萬貳千圓也	

○結婚媒約　府下檜物町の渡邊氏は明治八年の頃よりして結婚媒約所を起し爾來無數の緣組を周旋せられたる由なるが此頃來社しての談話に世は追々開けて今は先づ媒約所に周旋を委賴するとを恥とせざるやなれども當初は官員方の如き物分りたる人のみ然かも男子の方々計りが委賴ありて女方よりの委賴は絕てあらざりしが此頃は反て女子の方に多く只今にては男女合して五百人餘の申込ありとの事なり尙近くに申込人見合の交際會を開き力あるものは演說もし又花茶をも弄びて眼前に藝能を示さするの趣向を目論見中の由なり

○女流演說會　去六月廿二日は厚生館に於て高木兼寬氏の演說あり又當月三日には大學講義室に於て辻新次永井久一郞矢田部良吉木寺安敬諸氏の演說あり何れも傍聽は女子に限り演題は悉く女子に關係のものなりき雙方ともに弊社の速記者參り合せて筆記したれば續々之を揭載すべし

○宮廷錄事

○華族女學校　華族女學校に於ては現今華族の女子にして小學年齡を超過したるものゝ內或ひは中學科を履修するに堪へざるものありて從來此輩を敎育するの方なかりしを以て今般別に撰科の一科を設け當分の內華族の女子年齡十二歲より十六歲までにして就學を欲するものには本人生育の狀況と其志望とを參酌して一二適當の學課を敎授するとに定められたる由

○身分に關する結婚年齡　英國戶籍局長より其筋に提出せし最近の報告書中同國に於ける結婚年齡の統計を見るに上流社會と下等社會とか自ら其結婚年齡を異にするとは今日と雖も尙ほ昔日の如く專業に從事する者及び財產に餘裕ある者は大約三十歲にて結婚し農民は二十九歲、商人は二十九歲餘、技術者は二十四歲、日雇人製造所及び鑛山に服役する者は二十二歲にて孰れも結婚する割合なり但し專業に從事する者にして三十五歲以上にて結婚する者は十中一人の割合なりと云ふ(本年五月十四日桑港每週ル、フランコ、カリフオルニヤン」「本年六月十三日官報」

○束髮の事　伊豫の松山邊は束髮非常に流行し商家と雖ども少女は勿論三十歲以下の婦人は大概束髮となれりと○北海道の小樽にても束髮非常の流行にて新遊廓の如きも已に藝娼妓三十名計りは束髮に改めたるを見受たり○札幌にても矢張大流行にて已に束髮用花簪專賣商の出來たる位にて官吏紳士の細君令孃小學生徒は固より市中のものも老幼に拘はらず藝娼妓にまで及ぼし束髮にあらざれば婦人にあらずと云ふ位なりしよし　洋裝を着けたる婦人は未た多く見受ず○雲州の松江邊にては束髮は近來多く見受るも未だ流行と云ふ程にはあらざるよし○鹿兒島縣尋常師範學校の女生徒は過般來總て束髮洋裝になり居りしが同附屬小學の女生徒も此程成可く束髮洋裝になすべき旨說諭ありしを以て同生徒も近々束髮洋裝に改むると○新潟尋常師範學校附屬小學校の女生徒及び同縣高田の各小學校女敎員は此程より悉皆束髮にする事となれり

○東京女學　今度芝區櫻田鍛房町十三番地に設立せし東京女學は內外貴女紳士の贊助に成り其學科は英文學、和漢學、和洋裁縫、編物、刺繡、組系、和洋料理、唱歌、音樂、踏舞、圖畫、挿花、茶湯、衛生、家事經濟、脩身、諸禮等すべて文明婦人の學ぶべき科目を敎授し實用速成を旨とし我邦婦德をして益々上進せしむるの目的にて敎師は何れも久しく外國に留學し若くは我公使舘にありて十分實用女學に經驗ある內外の貴婦人なりと又遠國にある人若くは土地不便にして本學に入ると能はざる者或ひは已に人の妻となり家事多忙のため本學に入るの餘暇なき者の爲めに校外生なるものを募り本學日々敎授する所のものを卽ち一の通信敎授書に編纂し之を配布し又校外生となりて出張敎授を乞ふ者あるときは假令府下在住の者と雖ども其示談によりては其自宅に出張し生徒の好む所に應じ何科なりとも丁寧に敎授の勞を執るよし

○藝妓の演說　大坂にては先頃俳優の演說會ありしより漸次其流行町藝妓に及ぼし昨今は花柳演說會と稱して頻りに開會する由而して其收入金は當時同地にて公判中なる國事犯嫌疑者景山英女史の憂鬱を慰むるため差入物をなす費用に供すると云ふ景山子が斯る者等の寄附を受べきにもあらざらんものを近來賤業者が慈善

の事などに立ち關へるは宜らぬと也

○札幌共立女子職業學校　同校設立の事ハ曾て本誌に記載せしが今同地より、の報道に據れば愈々設立の事に決し規則及び維持方法も極り目下生徒募集中にて位置ハ札幌區北一條西四丁目角の北海道廳官舍を借受け校舍に充つることとなれりと又愈々開校の上ハ差當り官より補助金を一時に金一千五百圓下賜され猶ほ一ケ年每外國人の給料六百圓を當分の內補助せらるゝと又校長ハ今度三吉笑吾氏なり云々とありたり

○三重通信　桑名の貸坐敷主及び娼妓置屋の人々ハ今度女紅場を設置せんとて川口町の空地を買入れたれば不日工事に着手する由其費用の豫算ハ壹千圓にして已に有志者の寄附金ハ七百餘圓ありと又山田にても同地大世古町字新道に一の女紅場を設立し新道新町の兩町に出稼する娼妓に裁縫術を敎授し餘暇にハ算算の初歩をも修習せしめんとの目的にて目下各樓主相談中なり

○海外の女事

○巡察婦人　米國ブルツクリン府の書記官は十五名の巡察婦人を推擧し月給各六百弗を拂ふ事に定めたり

○女子投票會祝會　ニウイングランド女子投票會は五月二十三日即ち月曜日の夕方より米國ボストン府のペンドームホテルに四百餘名の客を招きて祝會を開きたり當夜はホーエ夫人リバモア夫人等懇切に客を待し且つ種々の面白き演說ありたりとぞ

○女子投票會年會　前號せる投票會は翌二十四日より同所のマイフナワンに於て年會を開きたり其際議決したるもの〻中主なるは左の如し

吾等は過る一年中にニウイングランドの投票論者が一層の活潑を以て其地〳〵の會合に働き尙ほ女子に同樣の權力を附與すると云に付て輿論が大に進歩したる事を祝すコンチクチカツト州は女子に學校委員たるべきことを許しメイン州には憲法改正の事を贊成するもの兩院の双方に於て過半數を占めバーモント州は府知事撰擧權を女子に附與することにつき代議院に過半の贊成員を生じ又マツサチウセツト州には賣酒官許ニ對する投票權を女子ニ與ふると云に關し代議院に多數の贊成を得尙ほ府知事撰擧の事に付てハ嘗て無き勝利を得ロードアイランドには憲法改正に七千箇の投票あり國會に於ても亦た國憲改正を贊成する議官多數を占めたり少娘保護の法律大に改良せられマツサチウセツト州內の大都市には巡察婦人を置かれ六十種の新聞紙ハ其紙面に女子投票論の一欄を設くるに至れり故に今ま之を祝する事

來る十二月女子投票權バザールをミウジツキホールニ開くべき事

役員撰定　議長　ルシーストーン夫人　副議長　三十五人

書記　ヘンリーブラツクエル夫人

會計　ホワイチング夫人

事務委員　委員長　スミス夫人以下委員十三人

○キュラヒダ夫人　五月廿八日の英國クイン雜誌に云く近頃日本東京に設立したる女子專門校の奬勵者たる一人木村ヒダ夫人は帝國大學の醫學部に入校したりと蓋し木村秀嬢の事を云ふなるべし

○合衆國第一のバイフリン彈手　はケンタツキーのデウク嬢及びバルチモーアのターレトン嬢なりと云ふ

○マダムデスタルの傳　英國の貴女ブレンチルハツセツトと云へるは十二年間スタルの逸事を取集めたる由なるが近頃の中に其傳を出版すべし

○社告

兼て英米へ注文致置たる女學上の雜誌の中左の八種は此頃に至りて續々到着仕候

Queen.	女王雜誌
Woman's Journal.	女學雜誌
Family Herald.	家族雜誌
Gooday's Ladies' Book.	女子用書
Girl's own paper	娘孃必携
The Lady,	婦女新誌
Young Ladies Journal.	少女雜誌

此外ハーパースモンスリー、センチウリー、チートウクワン、エクレクチツクマガジン、ハーパースバザールの類は從前の如く本誌に抄譯致す所に候

右に付本號の雜誌より新報の後に海外女事と云へる一欄を新設し歐米に於ける婦女子の運動を細かに報道いたすべし但し尙其外に右諸雜誌中より有益珍奇ある論說を抄出するとは勿論なり

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正増補 **文法口授** 全一冊 ● 一名和文獨案内 定價十八錢 郵税四錢

此書ハ文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の信用を得たれば尚亦今般大人に乞ひ改正増補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或ハ雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校なとに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校教科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに **成立學舍女子部** 及び **頌榮女學校** 並に **明治女學校** 等の **教科書** となりたり

通信女學 第一卷 第二卷 **再版成る**

右發兌後非常に需要多く二卷共に賣切の所其再版出來致候に付尚ほ需に應ずるを得べし○尚ほ第三卷去月發行可致處女學雜誌發行停止に付一社出版物の法律に依りて發行被差止候に付當七月には第三第四兩卷を發兌すべし

東京新橋日吉町八番地 **女學雜誌社**

オーガン幷に唱歌教授廣告

近頃婦女子の學ぶべきこと多しといへども風琴と唱歌ハ交際に教育に欠くべからざるものなり府下其教授所なきにあらずといへども入學の容易ならざると卒業の速かならざるが爲に志ありて果し得ざるものあり今度 **兩國** 矢の倉町壹番地會堂に於て毎週火金兩曜日午後四時より親切丁寧速成を主として教授す

● **結婚媒妁所** 東京日本橋區檜物町壹番地河岸通り角

全國何人ニ限ラズ嫁聟養子等媒妁依賴ニ應ズ御來談ヲ乞フ

英國ドイグ夫人著 日本井上勤君譯

細君の友 定價五十錢 紙數二百十三頁

凡ろ世の細君方は必らず子供を養育し婢僕を指圖するの職分あり此職分は何れも心配多き事なるが取分け近來漸く西洋風の教育、衣食住の流行に從ひ子供の養育法も婢僕の召使方も次第に改良すへき事少からず此書ハ英國のドイグ夫人が右の職分を最も親切に說き明せしものなれば世の細君方には家事を治むるの善き友達なるへし

女學雜誌主筆巖本善治君譯 **女之未來** 全一冊紙數八十頁 改正定價二十錢

東京神田雉子町 **輿論社書店**

● 毎週發刊 **教育報知** 一部金五錢 郵税一部一錢 ● 十部前金四十五錢

七月二日七十三號 **教育家十二傑** 其一 **伊澤修二君** ノ肖像及ヒ略傳入り

七月九日七十四號 **教育家十二傑** 其二 **西村茂樹君** ノ肖像及略傳入り

曩ニ教育家十二傑ノ投票ヲ世ニ求ムルニ當リ其高點者ノ肖像及ヒ畧傳ヲ本紙ニ掲クルコヲ約セリ依テ本月ヨリ逐號鮮明ナル石版ノ肖像ヲ挿入セリ御一覽アランコヲ乞フ

● 毎月發行 **教師の友** 一部金拾錢十二部前金壹圓郵税不要

第一號 高嶺秀夫先生肖像入り四學士及ヒ十二大家ノ講述及ビ論文アリ

第二號 西村貞先生肖像入リ五學士及ヒ八大家ノ講述及ヒ論文アリ

東京日本橋區本町二丁目壹番地 **東京教育社**

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

米國裁縫教師ニリノトークヘ氏校正
日本裁縫士大家松之助著

版權免許

男女西洋服裁縫獨案内　全

正價金壹圓あれ共今回壹萬部限り無類特別元價五拾錢
●府外郵稅十錢但滿員の上は正價に復す

●書中記載目錄●總論●裁縫器具種類及び用法定則●裁臺仕方●裁刀の用法●刻縫器械の用法●鋏の用法●尺度器の用法●定規木の用法●白墨の用法●篦の用法●鉆鉧の用法●火入鉆鍋の用法●海綿用法●霧水吹用法●當切れ方法●鍼縫名稱及方法●纏縫方法●掛繼方法●通常縫法●割繼方法●待針方法●縮張縫方法●飾縫の事●片引刺方法●押針方法●環係縫方法●洋服に用ゆる織布及び種類幷に用處●冬春秋夏の區別●裁法定則●躰格寸法取りの方法同圖解●縫方法則上衣の部第一着より第十三落成圖迄●穴かゞり方法●短胴服の部第一着より第五に終る●袴の部第一着より第四落成圖迄●裁物定則同注意●マンテル裁方同仕立上りの圖●脊廣裁方同仕立上りの圖●ジヤケツ裁方同仕立上りの圖●短胴服裁方同裁方同仕立上りの圖●袴短胴服裁方同仕立上りの圖●小兒マンテル裁方同仕立上りの圖●小兒袴裁方同仕上りの圖●マント裁方●通常禮服裁方同仕立上りの圖●同短胴服裁方同仕立上りの圖●外套裁方●小兒服着用服圖同半服の圖●女服裁方●小兒女服裁方●女服仕上りの圖●小兒女服仕上りの圖●支那國常服裁方同袴裁方同上下仕上りの圖●以下數十種略す

發賣本舖　大阪善安筋兩替町北へ入東側　博文堂書舖

發兌					
七月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
八月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
九月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價
一册。五錢　郵稅。一錢　(但府內無郵稅)
十册。四十八錢郵稅。十錢　(同前)
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告
特別廣告は婦女に關する協會會合等の記事を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む
一行　一回　(廿七字詰)　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社識の無代價にて引受く女學に關係の書籍の一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批許すべし

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8n Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō, Japan.

女學雜誌賣捌所
東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町闘々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新銭町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○橫濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町○虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所　東京京橋區日吉町八番地　本局　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐